

平成 29 年 7 月 24 日 (月)

15:30～17:00 会議室

記録：八巻

出席者…桐ヶ谷、高橋、岩佐、大河内、村川、大下、川島、水嶋

佐久間、碓井、森、高梨、斉藤、藤井、佐藤竜、佐藤登、松本、八巻 (敬称略)

*資料確認 (学校教育計画、学校評価報告書、逗子高校グランドデザイン、平成 29 年度学校パンフレット、平成 29 年度第 1 回授業改善研修会報告)

○校長あいさつ

部活動成績報告。陸上部競歩インターハイ出場、ハンマー関東大会出場。囲碁 3 年連続全国大会出場。2 年生で 400mH 好成績の生徒は次年度に期待。野球部も健闘、多くの生徒が応援に参加。サッカー部は強豪校と対戦、吹奏楽部は地区予選が間近に控えている。それぞれの活動を充実させていきたい。

○今年度の取り組みについて (今年度目標設定について)

☆副校長より

今年度の目標について別紙資料のように計画している。これについてご意見を伺うため、教頭及び各グループリーダーから説明を行う。

*教頭より、学校説明会等でも使用しているパワーポイントを使って学校紹介。

アクセス、学校標語、概要、生徒状況、特色 (学習指導、地域連携、部活動・学校行事)、入学者選抜について

*学務 G 斉藤より 教育課程 (学校案内 P4 参照)、視点 1 教育課程・学習指導について

夏季休業中の面談実施、選択科目 (自選に倫理を追加)、学力向上に向けた取り組み (朝学習スタディジョギング、自習室ラスカルの活用、自学自習) について説明。

*進路 G 佐藤竜より 視点 3 進路指導・支援について

それぞれの学年の段階に合わせたガイダンスの実施 (学校案内 P4 参照)、スタディサポートの導入と今後への反映、模擬試験の実施、オープンキャンパス参加の積極的奨励、一般受験 AO 入試について。現状では推薦入試希望者が増加傾向、進路実現に向けて必要な学習の充実を目指したい。

*生徒指導 G・生徒会指導 G について佐藤登より 視点 2 生徒指導・支援について

生徒指導に関して。落ち着きのない生徒や切り替えのできない生徒が増加傾向、引き締めを意識した指導を行っていきたい。不登校の生徒も増加傾向にあり情報の共有を心がけ担任だけが抱えこまないようにする。

生徒会支援については佐藤潔を中心に文化祭に向けて準備が進行中。生徒が自らの手でつくることを意識した活動の成果が出てきている。

*広報 G 松本より 視点 1 学習指導 3 進路指導・支援 4 地域等との協働について

授業力の向上についての研修を 5 月に実施 (別紙資料参照)。今後も改善を目指した取り組みを継続する。地域との協働についてもそれぞれの学年で行われている海岸清掃、ワークショップ、地域インタビューなどを引き続き行っていく。また今回のような会議でも意見を頂き今後に生かしていきたい。

*総務 G 副校長より 視点5 学校管理・学校運営について

学校管理に関して安全安心な教育環境の整備を目標に、夏休み中に水嶋委員をアドバイザーに迎えて DIG 研修会を実施する予定である。学校防災アドバイザーとして土砂災害対策にも取り組んでいく。

コミュニティースクールという面では、色々な場面で生徒が地域とかかわることで、生きる力を育んだり、規範意識を向上させたりということにつながっている。より効果を上げられるように、去年あまり機能しなかった部会を含めて充実させていきたい。

☆質疑応答

村川：前年度の報告について、予算がなく報告書がなくなってしまったため自分で処理をせざるを得なかったが、最初にやると言ったことについては報告を関係する各方面にしなければならない。何かをする時に市民にわかるような報告は必要と考えるが、今後についてはいかがか？

副校長：担当グループと確認し、生徒の変容などを見るためにもアンケートの数字などまとめていけるようにしたい。

村川：地域を巻き込んで実施していることに関しては、報告書やまとめの文書が必要になってくる。予めそういった文書作成の有無がわかっていないのは困るので、今後改善を含めて対応をよろしくお願いしたい。

☆各委員より

* 自学自習に関して大賛成。組み立てが自分でできる、考えて行動する癖をつけることは重要。

不登校の数は一時的なものなのかは不明だが、可能な限りゼロにして欲しい。(桐ヶ谷)

→色々な形態の学校がある。生徒それぞれに合った方向性をしっかり見出せるように導いていきたい。(佐藤登)

* きめ細かい目標設定と不登校の行き場所をどう設定するかは大切である。色々な意見を聞きながら今後自分が委員としてどのようにしたらよいか考えていきたい。(高橋)

* 多岐にわたって大変な部分はあるだろうが、学習から就職までを考えた時に高校生にとって何が大切なのか。社会の一員として高校生はどうあるべきか見据えた中で地域に出たり、進路を決めることは大切である。(岩佐)

* 企業の今後 10 年 20 年を考えた時に現在ある仕事なくなるのではないかとということも視野に入れた上で進路を考えさせたい。中学校は落ち着きつつあり、ルールとマナーをはき違えず社会貢献ができるようにさせたい。逗子中学では外から見えるように垣根カットを行った。通学で通る高校生との相乗効果が出ることを期待したい。(大河内)

* 10 月 4 日～6 日の逗子アートフェスティバルで文化プラザホールのギャラリーに野菜の絵 120 枚を展示、商工会との連携も図り、商店の方にも飾っていただく。(村川)

* 学習、補習など丁寧である。(若干中学生のような印象も受けるが...) Z-selec の地域連携も 7 年目となり今年度は新たに 4 名入った。卒業生で展示に訪れてくれる生徒や目標を持って生活している人材が育っていることは大変喜ばしい。褒めることの大切さも実感している。(大下)

* 地域とのつながりを作る中で一人でも二人でもそこから将来に関するヒントを得ることができる生徒がいること、一人ひとりにあった指導をすること、夏休み明けの生徒の変化に注目することは大切である。合唱コンクールでは歌は素晴らしかったが、生徒への指示と生徒の行動についてけじめや区切りのない部分が気になった。下校時には特に乱れた様子は見られない。(川島)

本校では様々な行事の運営を生徒達自身の手で行っている。そういった中ではご指摘のようなことも起こるが、うまくいかない部分も含めて生徒達の経験になると考えている。(校長)

*今後も協力し防災アドバイザーとしても指導を行っていく。危機管理と子供達が自分の命を大切にすることは非常に重要である。子供達の将来も見据えた備えをきちんとし、言われたことだけでなく自分から率先して行動できる子供が育つようにできる限り協力していきたい。(水嶋)

☆校長より

行事は生徒が主体で行えるように校歌の2番の歌詞を理解して自分達で創り上げていくような生徒を育てていきたいと考えている。子供達に任せ、自治と自由を大切にしていきたい。

今年度目標設定について別紙の通り承認

○その他

今後の予定確認を行った。